

# 走魂



## 学生三大駅伝結果報告

第31回 出雲駅伝・第51回 全日本大学駅伝・第96回 箱根駅伝

ご声援ありがとうございました。

中央学院大学



# 21回目の挑戦は、 6年連続シードに 僅かに届かず

主力選手の離脱にグラウンドの冠水もあった。  
それでもチームは一丸となって箱根駅伝を戦った。  
結果は大学最高記録での11位。悔しさを力に変える。



2020/1/2  
往路は12位

1区と5区で好走

スピード勝負は5位発進

超高速レースとなった1区は1万mで28分35秒00（大学歴代4位）のタイムを持つ栗原啓吾（2年）。10kmを28分48秒で通過するハイペースも集団後方に陣取りしつかりとついでいく。

「集団走は自分でも得意だと思っていた」という栗原は徐々に削られていく先頭集団のなかで生き残った。18km過ぎに集団は崩れたが、優勝候補の東海大学や青山学院大学のエースたちと競り合うようにしてラストスパート。トップの創価大学・米満伶（4年）と13秒差の5位で鶴見中継所に飛び込んだ。「先頭との差を15秒以内にすることだけを意識しました。集団走にうまくはまって記録も出せたかな」と栗原。1区の大学記録を46秒も上回る快走だった。

14kmまで先頭集団で進行

各校のエースが集う「花の2区」は川村悠登（4年）。前回は1区で14位と低迷したため、同区間でのリターンマッチを誓っていた。

しかし、前回2区を務めた高橋翔也（3年）が直前に故障。2週間前にエース区間を走ることが決まった。

川村は快調に飛ばして2km過ぎで先頭に追いつき、その後はトップ集団でレースを進めた。14km過ぎから徐々に遅れると、10位でタスキをつなぐ。区間順位は14位と振るわなかったが、設定タイム（1時間8分30秒）をクリアした。それでも川村は、「栗原がいい位置で持ってきてくれたのに、権太坂の下りでリズムを戻すことができませんでした」と自身の走りには納得していなかった。

戸口は実力を発揮できず

3区は夏以降の成長が目覚ましい戸口豪琉（3年）が出走した。出雲駅伝と全日本大学駅伝には出場できなかったが、9月以降に1万mの自己記録を更新している選手だ。

戸口は戸塚中継所を10位でスタート。7km過ぎに拓殖大学と明治大学に抜かされても、マイペースを貫いた。海岸沿いに出てからペースを上げていくレースプランを考えていたが、思惑通りにはならなかった。「調子は良かったんですけど、思うようにペースが上がりませんでした」と戸口。順位は12位に落とすと、シード権ライオンとは57秒差がついていた。



スピードランナー栗原啓吾（2年）がトップと13秒差の5位と絶好のスタートを切った。



終盤は苦戦をしたが、「花の2区」でトップ集団につける走りを見せた川村悠登（4年）。



秋から調子を上げてきた戸口豪琉（3年）だが、本領を発揮することはできなかった。



## 城田は終盤に粘りの走り

各校が主力を配置する4区は城田航（4年）が起用された。最上級生ながら、三大駅伝の経験は昨年の全日本大学駅伝の1区のみ。「全日本は集団についていけば良かったんですけど、今回は前も後ろもいなかった」と、単独走で51秒前にスタートした11位の拓殖大学を追いかけた。

二宮（8・9 km地点）で11位に

転落した東洋大学に14秒差まで詰め寄ると、ほどなく逆転。小田原中継所には11位でタスキをつなげた。57秒差あったシード権ラインを19秒差まで短縮。酒匂橋（15・2 km）の通過時は区間14位だったが、最終的には区間10位まで順位を上げた。「とにかく前を追うことだけを考えて走りました」と城田。設定タイムを16秒上回る1時

間2分49秒の好走だった。

## 畝がシード権ラインに接近

山上りの5区は初の学生駅伝となる畝歩夢（3年）が挑戦した。今季の畝はエントリーマンバーのなかで最も多くのレースに参戦して、経験を積んできた。双子の弟・拓夢（中央大学）と、兄弟対決となったが、畝は「1時間12分切り」にターゲットを絞り、山を駆け上がった。

15 km過ぎに区間新記録を樹立した東洋大学・宮下隼人（2年）に並ばれるも、粘りの走りを見せる。最後までデッドヒートを繰り広げて、12位で芦ノ湖のゴールにたどりついた。区間タイムは1時間12分46秒（区間8位）で、「自分の力を出し切ることができませんでした」と畝は悔しがった。順位を1つ落としたものの、10位の拓殖

大学とは9秒差。畝の追い上げで、シード権ラインに急接近した。

## 2020/1/3 復路 総合11位で連続シードを逃す

### 無名のルーキー武川が快走

往路を終えて、9位の早稲田大学から12位の中央学院大学までは29秒差。山下り6区は大学から競技を始めた武川流以名（1年）が抜擢された。初めての学生駅伝でも臆することなく攻め込み、快調に山を駆け下りていく。

拓殖大学と早稲田大学を抜き去り10位に浮上すると、19 km地点で創価大学もかわす。58分25秒の区

間5位と快走。大学記録を更新して、1年生の歴代最高記録も上回った。武川は、「90点ですね。終盤の平地を粘れなかった」と反省点を口にしたが、川崎勇二監督も驚くような快走だった。

### 粘りを見せるも反撃ならず

9位でタスキを受けた7区吉田光汰（2年）は5 km過ぎに腹痛を起こして、苦しいレースになった。17秒後ろにいた創価大学に一度は並ばれるも、粘りの走りを見せて、終盤に突き放した。しかし、20 km過ぎに早稲田大学に抜かされ、10位に転落。吉田は「自分のところでチーム目標の6位が見えていたのに、前を追えなかった」と自身の走りに悔しさを滲ませた。

### 8区藤井は10位を死守

8区は箱根駅伝初出場となった藤井雄大（4年）。8区の候補は他にもいたが、川崎監督は練習を継続できている面を評価して出走が決まった。しかし、10 kmくらいで脚がつりそうになり、12 km過ぎからは明確な記憶がないほど苦しんだ。そして、13 km過ぎに37秒差あった創価大学に追いつかれると、遊行寺の坂で引き離された。それでも、終盤に意地を見せる。懸命に力を振り絞り、18 km過ぎで創価大学に追いつくと、前に出て、少しづつリードを拡大していく。

ルーキーながら区間5位の快走を見せた武川流以名。12位から9位まで順位を押し上げた。



最終的には創価大学に7秒差をつけて、10位でタスキをつなげた。「監督の期待に応えられず、自分のところでシード権を危うい状態にしてしまった」と藤井。シード圏内はどうか死守したものの、厳しいレースが続くことになる。

### 9区有馬は区間2位の力走

復路のエース区間である9区は主将の有馬圭哉（4年）が担った。今シーズンには調子がなかなか上がらず、出雲駅伝も出走できなかったが、「お前で決めてくれ」と川崎監督は有馬を送り出した。

11位創価大学と7秒差でタスキを受けた有馬は快調に駆け抜けて、横浜駅前（14・5 km地点）で創価大学とのリードを22秒まで拡大する。鶴見中継所では創価大学



最初で最後の箱根となった城田航（4年）は東洋大学をかわして、11位に順位を上げた。



5区山上りを任された畝歩夢（3年）は順位を落とすも、シード権ラインに近づいた。





8区藤井雄大(4年)は一度シード圏外に落ちるも、粘りの走りで10位に復帰した。



有馬圭哉(4年)は主将らしい積極的な走りを見せて区間2位と結果を残した。

箱根駅伝個人成績

| 区間  | 距離       | 氏名    | (学年) | 通過順位 | 区間順位 | 区間タイム     |
|-----|----------|-------|------|------|------|-----------|
| 1区  | (21.3km) | 栗原 啓吾 | (2年) | 5位   | 5位   | 1時間01分26秒 |
| 2区  | (23.1km) | 川村 悠登 | (4年) | 10位  | 14位  | 1時間08分21秒 |
| 3区  | (21.4km) | 戸口 豪琉 | (3年) | 12位  | 15位  | 1時間03分55秒 |
| 4区  | (20.9km) | 城田 航  | (4年) | 11位  | 10位  | 1時間02分49秒 |
| 5区  | (20.8km) | 畝 歩夢  | (3年) | 12位  | 8位   | 1時間12分46秒 |
| 6区  | (20.8km) | 武川流以名 | (1年) | 9位   | 5位   | 58分25秒    |
| 7区  | (21.3km) | 吉田 光汰 | (2年) | 10位  | 14位  | 1時間04分55秒 |
| 8区  | (21.4km) | 藤井 雄大 | (4年) | 10位  | 15位  | 1時間07分09秒 |
| 9区  | (23.1km) | 有馬 圭哉 | (4年) | 10位  | 2位   | 1時間08分56秒 |
| 10区 | (23.0km) | 石綿 宏人 | (3年) | 11位  | 18位  | 1時間12分28秒 |

学院大学は再浮上を期す。

| 箱根駅伝総合成績 |        |            |
|----------|--------|------------|
| 順位       | 大学名    | 総合記録       |
| 1位       | 青山学院大学 | 10時間45分23秒 |
| 2位       | 東海大学   | 10時間48分25秒 |
| 3位       | 國學院大学  | 10時間54分20秒 |
| 4位       | 帝京大学   | 10時間54分23秒 |
| 5位       | 東京国際大学 | 10時間54分27秒 |
| 6位       | 明治大学   | 10時間54分46秒 |
| 7位       | 早稲田大学  | 10時間57分43秒 |
| 8位       | 駒澤大学   | 10時間57分44秒 |
| 9位       | 創価大学   | 10時間58分17秒 |
| 10位      | 東洋大学   | 10時間59分11秒 |
| 11位      | 中央学院大学 | 11時間01分10秒 |
| 12位      | 中央大学   | 11時間03分39秒 |
| 13位      | 拓殖大学   | 11時間04分28秒 |
| 14位      | 順天堂大学  | 11時間06分45秒 |
| 15位      | 法政大学   | 11時間07分23秒 |
| 16位      | 神奈川大学  | 11時間07分26秒 |
| 17位      | 日本体育大学 | 11時間10分32秒 |
| 18位      | 日本大学   | 11時間10分37秒 |
| 19位      | 国士舘大学  | 11時間13分33秒 |
| 20位      | 筑波大学   | 11時間16分13秒 |
| O P      | 関東学生連合 | 11時間12分34秒 |

第97回大会へのシード権獲得



7区吉田光汰(2年)は腹痛に襲われながらも、シード圏内の10位を死守した。

悔し涙でのフィニッシュ

との差を55秒まで広げていた。目標タイム(1時間9分10秒)を上回る1時間8分56秒の区間2位と快走。最後の箱根で、「悔いが残ることなくできたので良かった」と圧巻のパフォーマンスを見せた。

アンカーは昨年も10区を任された石綿宏人(3年)。前回大会は9位でタスキを受けるも拓殖大学に抜かれて10位に順位を落として、全日本大学駅伝の出場権(関東学連の推薦校)を逃している。その責任を石綿は重く

受け止めており、今回はチームに貢献する走りを誓っていた。

11位創価大学とは55秒のアドバンテージがある状況で、シード権は安全圏だと思われた。しかし、石綿のペースが上がらない。そして、追いかけてくる創価大学・嶋津雄大(2年)の走りが素晴らしかった。石綿は蒲田(5・9km地点)で創価大学に18秒差まで詰め寄ら

2年連続アンカーを務めた石綿宏人(3年)はシード権を逃して、涙が止まらなかった。



れると、9・5km付近で逆転を許した。その後、ふたりの差はどんどん開いていく。石綿が大手町のゴールに戻ってきたのは11番目。石綿は区間18位、嶋津は区間賞(区間新)だった。

「昨年と全く同じ展開になってしまい、申し訳ない」と石綿の涙は止まらなかった。目標としていた6位は遠く、そして6年連続シードにも届かなかった。

エース高橋翔也(3年)が直前で故障をしたため、急遽オーダーを変更することになり、「デコボコの駅伝」(川崎監督)になった。それでも、1区栗原、6区武川の快走は未来につながるものになっただろう。来年度は、出雲駅伝の出場権を失い、全日本大学駅伝と箱根駅伝は予選会からの出発となるが、今回の悔しさをバネに中央学院大学は再浮上を期す。



## 4区終了時は6位も 終盤失速して11位

学生三大駅伝の開幕戦となる出雲駅伝。5年連続10回目という節目の出場となった中央学院大学は、前回(6位)から順位を大きく落とすことになる。

1区を任されたのは前年と同じくエース格の川村悠登(4年)。区間4位だった前回には及ばなかったが、関東勢トップの駒澤大学から13秒差の8位と最低限の仕事を果たした。スピード区間の2区は、

| 区間 | 距離        | 氏名    | (学年) | 通過順位 | 区間順位  | 区間タイム  |
|----|-----------|-------|------|------|-------|--------|
| 1区 | (8.0 km)  | 川村 悠登 | (4年) | 8位   | 8位 …  | 24分36秒 |
| 2区 | (5.8 km)  | 小島 慎也 | (1年) | 7位   | 5位 …  | 16分32秒 |
| 3区 | (8.5 km)  | 高橋 翔也 | (3年) | 7位   | 11位 … | 25分01秒 |
| 4区 | (6.2 km)  | 吉田 光汰 | (2年) | 6位   | 7位 …  | 17分57秒 |
| 5区 | (6.4 km)  | 栗原 啓吾 | (2年) | 10位  | 20位 … | 19分40秒 |
| 6区 | (10.2 km) | 長山 瑞季 | (4年) | 11位  | 11位 … | 30分50秒 |

9月の日体大長距離競技会で1万m 28分42秒41を叩き出した小島慎也(1年)。ルーキーらしく積極的な前の集団を追いかけ、順位を1つ押し上げた。

各校のエース級が集結した3区は高橋翔也(3年)が区間11位と苦しんだものの、7位をキープ。4区吉田光汰(2年)が順天堂大学を抜き去り6位へ浮上した。ところが、5区を走る栗原啓吾(2年)が区間20位。原因不明の大失速に陥ったのが誤算だった。10位に転落すると、アンカーに起用された長山瑞季(4年)も1つ順位を落とし、総合11位でのゴールとなった。

川崎勇二監督は「栗原の失速は想定外。うちは大エースがいなくて、ミスをしただけで取り返せない。このままでは上位校と戦っていけない」と厳しい評価。一方で2区小島など新戦力の台頭には手応えを感じていた。



写真提供@pctril-alife

ルーキーの小島慎也は2区を区間5位と好走した。

## 10位でフィニッシュ シード権と28秒差の

13回目の伊勢路は1区を予定していた小島慎也(1年)が捻挫のために欠場。栗原啓吾(2年)も調子が上がらず、出場を見合わせた。そのため学生駅伝未経験となる城田航(4年)を1区に抜擢。トップと22秒差の9位とまずまず



27チームが出場した全日本大学駅伝。1区は城田航(4年)。

のスタートを切った。

しかし、2区川村悠登(4年)が区間15位と振るわず、15位に転落。

さらに3区吉田光汰(2年)も区間18位のブレーキとなり、17位まで順位を落とした。

3区終了時でシード権(8位)ラインと2分09秒という差がついていたが、中盤区間の選手たちが奮起する。4区高橋翔也(3年)が3チームを抜き去ると、5区藤井雄大(4年)は順位をキープ。

6区有馬圭哉(4年)の3人抜きで11位まで浮上した。それでもシード権ラインとのタイム差は1分57秒とさほど変わらない。7区長山瑞季(4年)は区間11位で順位変動なし。見えない背中を追いかけた8区石綿宏人(3年)は区間6位と好走。立命館大学を抜いて、10位でフィニッシュした。終わってみれば、遠かったシード権に28秒差まで急接近していた。

「シード権をひとつの目標にしていたんですが、2区間続けてミスがあった。序盤で乗れなかったことがすべてでしたね」と川崎勇二監督は前半の出遅れを悔やんでいた。

| 区間 | 距離        | 氏名    | (学年) | 通過順位 | 区間順位  | 区間タイム  |
|----|-----------|-------|------|------|-------|--------|
| 1区 | (9.5 km)  | 城田 航  | (4年) | 9位   | 9位 …  | 28分11秒 |
| 2区 | (11.1 km) | 川村 悠登 | (4年) | 15位  | 15位 … | 32分56秒 |
| 3区 | (11.9 km) | 吉田 光汰 | (2年) | 17位  | 18位 … | 35分32秒 |
| 4区 | (11.8 km) | 高橋 翔也 | (3年) | 14位  | 5位 …  | 34分22秒 |
| 5区 | (12.4 km) | 藤井 雄大 | (4年) | 14位  | 9位 …  | 37分15秒 |
| 6区 | (12.8 km) | 有馬 圭哉 | (4年) | 11位  | 7位 …  | 38分26秒 |
| 7区 | (17.6 km) | 長山 瑞季 | (4年) | 11位  | 11位 … | 53分54秒 |
| 8区 | (19.7 km) | 石綿 宏人 | (3年) | 10位  | 6位 …  | 59分30秒 |



4区高橋翔也(3年)は3人抜きの区間5位と奮起した。



7区長山瑞季(4年)は順位を上げることができなかった。



## 失った「出場権」を 必ず取り返します！

かわさき ゆうじ  
駅伝部監督 **川崎 勇二**

**残** 念ながら11位ということで、6年連続シードを逃しました。しかし、連続出場は続いており、今回で18年連続です。予選会を突破しないと全日本大学駅伝と箱根駅伝には出られない状況ですが、何としてでも出場したい。ここまで連続出場ができたのはミスなくやってこられたからです。私はミスなくやれば再び浮上できると信じています。ゼロから、失ったものを取り返すように精進してまいります。OB、保護者の方々、大学関係者の方々、たくさんの応援をしていただき、本当に力になりました。来年いい報告ができるように、部員共々1年間しっかりやっていきます。

## 選手コメント



くりはら けいご  
**1区 栗原 啓吾** 法学部2年  
東京農業大学第二高等学校(群馬県)

ハイペースのレース展開でしたが、自分でも思った以上に走ることができました。先頭から15秒以内という指示を達成できて良かったと思います。集団走にうまくハマったので、来年の箱根もまた1区で頑張りたいです。



かわむら ゆうと  
**2区 川村 悠登** 法学部4年  
中央学院高等学校(千葉県)

2区は長かったというのが正直な感想です。1時間8分00～30秒が目標だったので、設定通りのペースでいくことができました。しかし、ここまで高速レースになると思っておらず、周りの選手が何枚も上手でした。



とぐち たける  
**3区 戸口 豪琉** 法学部3年  
武蔵越生高等学校(埼玉県)

海沿いに出てから思うようにペースが上がらずに前との差が開いていってしまっ、迷惑をかけてしまいました。他校の選手と勝負することができなかったのも、来年は同じ区間でしっかり勝負できるようにしたいです。



しろた わたる  
**4区 城田 航** 法学部4年  
東京農業大学第二高等学校(群馬県)

沿道から耳が痛くなるくらい大きな声で応援してもらい、また自分の名前を呼んでもらえて、それが力になりました。目標タイムはクリアでしたが、区間10位というところで周りのレベルの差を感じました。



うね あゆむ  
**5区 畠 歩夢** 法学部3年  
倉敷高等学校(岡山県)

自分の力を出し切れなくて、悔いの残る大会になってしまいました。来年でもできれば山上でリベンジしたいという気持ちがあります。まずは予選会を突破するということを目標にしっかり走り込んでいきたいです。



## グラウンド水没でも よく頑張りました！

いちかわ ひとし  
学 長 **市川 仁**

**川** 崎監督、コーチ、選手の皆さん、本当にありがとうございました。惜しくもシード権は取れませんでした。拝見しますと非常に一生懸命頑張ってくれたと思います。台風19号の影響でグラウンドが水没してしまい、思うような練習ができなかったなかで、この成績は素晴らしいと心から思っています。明日からまた新たな挑戦が始まりますが、不死鳥のように蘇って我々に新しい夢を見させていただきたい。これからも頑張っていだければと思っています。皆さま、来年も応援をよろしく願いいたします。2日間、ご声援ありがとうございました。



ぶかわ るいな  
**6区 武川 流以名** 法学部1年  
島田樟誠高等学校(静岡県)

狙っていた記録よりいいタイムで走れたので良かったです。坂を下りきった後、平坦になったところで完全に置いていかれてしまったのは反省点ですね。今回マークした大学記録を来年はさらに短縮したいと思います。



よしだ こうた  
**7区 吉田 光汰** 法学部2年  
拓殖大学紅陵高等学校(千葉県)

チーム目標の6位を達成できず、シード権を取れなかったのが一番悔しいです。個人の走りも不満が残っています。来年は予選会からのスタートなので、個人のためではなくチームのためにしっかり走れるようにしたいです。



ふじい ゆうだい  
**8区 藤井 雄大** 法学部4年  
県立大分西高等学校(大分県)

ここまで調子が良くて、監督に期待を込めて起用していただきました。それに応えることができず、自分のところでシード権をかなり危うい状態にしまいました。大事な試合で外してしまって申し訳なかったです。



ありま けいや  
**9区 有馬 圭哉** 法学部4年  
県立東播磨高等学校(兵庫県)

個人としては反省点も特になく最大限の力を発揮できました。設定タイム以上の走りができて、悔いはありません。ただ連続シードを逃がしたのは、主将として責任を感じていますし、全員に慢心があったと思います。



いしわた ひろと  
**10区 石綿 宏人** 法学部3年  
松戸市立松戸高等学校(千葉県)

連続シードを守ることができず、チームメイトに申し訳なく思いますし、応援してくれた方々に情けないところを見せてしまいました。全日本の選考会、箱根予選会をひとつの目標としてやっていきたいです。



**中央学院大学  
箱根駅伝特集ページ**

中央学院大学の箱根駅伝レポートや選手へのインタビューによるコラムを掲載中。

CGU箱根 検索



**駅伝部公式  
Facebookページ**

駅伝部最新情報は  
こちらをご覧ください。  
ぜひ「いいね」をお願いします。



**CGU駅伝部  
Twitter**

箱根駅伝の臨場感あふれるつぶやきや  
駅伝部の旬な情報をお届けします。

@cgu\_ekiden